

東京2020オリンピック・  
パラリンピック競技大会  
開催への機運醸成に関する  
特別要望書

宮城県町村会

## 東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会開催への機運醸成について

平成30年5月、宮城県総合運動公園（グランディ21）宮城スタジアムが東京2020オリンピック競技大会サッカー競技会場としてI O Cの承認を得て、正式決定した。

これまで、宮城県では「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会宮城県推進会議」を設置し、ボランティア、計画輸送、聖火リレーなど、細部にわたる検討を進めている状況にある。

また、競技会場である利府町を始めとして、ホストタウンとして蔵王町、柴田町が、復興「ありがとう」ホストタウンとして亶理町、加美町が大会参加国との交流を進めるなど、様々な動きも活発化してきており、各町村でも大会への期待が高まってきているところである。

開催まで2年を切り、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との協議も本格化していると思われるが、東京都や他の都市と比べ、「機運醸成」の分野で出遅れている状況も認められ、懸念しているところである。

ついては、「復興五輪」として大会を成功に導く為にも、県全体で、更なる機運醸成を図ることを強く要望するものである。

平成30年11月6日

宮城県町村会長 村上英人